

HISTORY OF TARO SUZUKI

鈴木太郎

その人生の足跡を辿る



鈴木太郎の足跡

1935年（昭和10）	0歳	父・治郎、母・花子の次男として愛媛県松山市松山町にて誕生。 兄・昭夫、妹・京子、祖母・ハルの6人家族
1941年（昭和16）	6歳	松山市立松山小学校入学
1944年（昭和19）	9歳	祖母・ハル死去（享年65）
1947年（昭和22）	12歳	松山市立松山中学校入学
1950年（昭和25）	15歳	愛媛県立愛媛高校入学
1953年（昭和28）	18歳	愛媛工業株式会社（愛媛県松山市）に就職
1960年（昭和35）	25歳	6月15日、田中佳子（22歳）と結婚 松山市鈴木町の借家で新婚生活開始
1962年（昭和37）	27歳	5月8日、長女・夕子誕生（体重3,200g）
1965年（昭和40）	30歳	12月3日、長男・太一誕生（体重3,200g）
1967年（昭和42）	32歳	松山市湊町7丁目に新居を建築
1973年（昭和48）	38歳	製造部製造課長に昇進 アメリカ・オハイオ州の関連工場へ1年間単身赴任
1983年（昭和58）	48歳	製造部長に昇進
1988年（昭和63）	53歳	長女夕子結婚、東京都世田谷区へ転居
1989年（平成元）	54歳	8月25日、初孫・朝美誕生
1990年（平成2）	55歳	2月10日、父・治郎死去（享年80）
1992年（平成4）	57歳	11月1日、夕子の次女・香澄誕生
1994年（平成6）	59歳	長男太一結婚、松山市愛媛町に新居を建築し転居
1996年（平成8）	60歳	定年退職
1997年（平成9）	61歳	4月、自宅リフォームが完了 9月30日、太一の長男・孝志誕生
2000年（平成12）	64歳	7月13日、母・花子死去（享年86）
2001年（平成13）	65歳	12月22日、太一の次男・敦史誕生
2002年（平成14）	66歳	妻と四国遍路の旅（3月22日～4月22日）
2006年（平成18）	70歳	10月、肺炎を患い松山赤十字病院に入院
2011年（平成23）	75歳	東京第一ホテル松山にて金婚式のお祝い
2014年（平成26）	78歳	兄・昭夫死去（享年80）



鈴木 太郎

生年月日	昭和10年10月20日（82歳）
出生地	愛媛県松山市松山町5丁目5-55
現住所	愛媛県松山市湊町7丁目1-8
身長	170cm
体重	65kg
趣味	釣り・庭いじり・時代劇を見ること
大切なもの	家族・釣り竿・時計（親の形見）
好きなもの	甘いもの全般・晩酌・愛犬ジロー
嫌いなもの	トマト・高い所・わがままな人
自己の性格	生真面目すぎて融通がきかない
好きな言葉	継続は力なり

誕生時

この文章はすべてダミーです。県民総合文化祭は、愛媛の秋を彩る文化行事として県民の皆さんに広く親しまれてまいりました。

今年度は総合フェスティバル、子ども伝統文化フェスタ、30周年プレイベントのほか、各分野の舞台公演や大会・展示など、県下各地で盛大に開催され、多くの皆様にご来場いただきました。運営に携った文化団体の皆様の御尽力はもとより、開催地の市町や文化協会、その他大勢の



3歳の頃の家族写真

「町内のPRが足りないのではないか」が一番多く主催する者、考えさせられました。平成七年の時は座席が足りず困った事を覚えております。近年は地方でも文化祭、祭り、コンサートなども盛んになり、会場へ出かける機会が多くなったのも、「毎週々々行けない」理由なのかも知れません。「すばらしかった、このような公演を毎年開いてほしい」がいつも聞こえます。

平成29年度の愛媛県での最大のビッグイベントといえば9月から10月にかけて行われた愛媛国体と障がい者の愛媛大会だったと言っても過言では無かったと思います。常日頃より県民の皆様は、障がいをお持ちの方々をより身近に感じていただきたいと思っていましたので10月末の障がい者の愛媛大会の直前に「視覚障がい者と共にする美術鑑賞とبارリアフリー上映会」を企画しました。

この文章はダミーです。今回、「県民総合文化祭企画公募事業」に選出していただき、多くの県民の皆様にご来場する機会をいただいたことがとても大きな成果に繋がっていったと思っています。

皆様のご理解ご協力をいただきましたことを改めて感謝申し上げます。

来年度、県民総合文化祭は30周年を迎えるということで、これまでの県文祭にはなかった新たな催しを予定しております。文化の素晴らしさを県民の皆様にお届けし、「愛顔（えがお）あふれる愛媛県」づくりに貢献するため、協会一丸となって取り組んで参りますので、引き続き、皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。

モダンダンス公演「愛媛ダンスコンテンポラリー」は、県民総合文化祭とともに第1回目より30年間の歴史を刻んで参りました。

移動公演として県内各地をまわり、開催地の文化団体とのコラボレーションを積極的に行い、個性あふれる各会員の作品とともに、昨年も幼児から大人まで出演者が集いました。

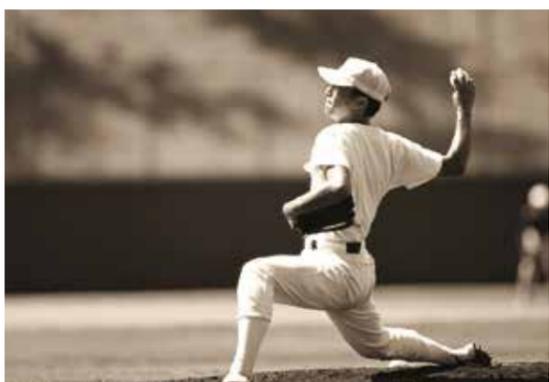
今回は、今治市で8年ぶりの開催。8年前の合同作品「鼓動〜しまなみ海道10周年によせて〜」では今治寿太鼓保存会の皆さんと共演しました。合同作品では、東・中・南予の県内全域から参加して作品に取り組み

まず、10月14日（土）に愛媛県美術館を会場として「視覚障がい者と共にする美術鑑賞会」を行いました。

中学・高校時代

目標としては、これまで視覚障がい者にとって遠い存在であった美術鑑賞をより近づけていくことと、県民の皆様へ新しい美術鑑賞の提案を行うことでした。

とにかく県内では初めての斬新な試みでもあり、当日の来場者が想定



中学時代は野球に熱中

共に研鑽し、普段は各地で個々に活動する会員が、心一つに本番の舞台にのぞむ、協会活動ならではの醍醐味です。

幼少時代

この文章はダミーです。合同作品「クロスポイントそれぞれの未来へ」は、公演当日の場が、観客を含めた舞台にかかわる全ての人の時間・空間の接点（クロスポイント）となり、それぞれの次に繋がるという意味をこめて踊りました。

ピアノと津軽三味線の生演奏で、舞台上には「叶」の墨の文字を吊り、音楽と書の名も加わったエネルギーシユな舞台となりました。

県民総合文化祭30周年、文化協会25周年という大きな節目を迎え、愛媛の文化の益々の発展を祈念し、当協会もその一助を担えるよう努力したいと思えます。

平成二十九年県民総合文化祭民謡民舞の部を愛南町御荘文化センターで公演させて頂きました。過



松山高校入学式の日、校門前で

よりも多くいくつかの課題もありましたが、来場者に多くの「気づき」を感じていただいたと思います。続いての、10月22日（日）は松山市総合福祉センターを会場として「バリアフリー上映会「映画【光】 監督・河瀬直美」を上映しました。

目標としては、これまで見ていただくことが少なかった障がい者や高齢者に映画の楽しさを享受していただくことでした。

当日は、視覚障がい者にはUDキャストや音声モニターの貸し出しにより解説音声の聴取や聴覚障がい者には字幕や手話や要約筆記などに



小学3年の頃、学校の友達と

去には、平成七年と同十八年の二回この会場で開催させて頂いております。公演内容は例年通り、民謡（四国の唄と踊り全国の唄と踊り）と民舞、三味線合奏、尺八合奏などバラエティーに富んだ賑やかな内容となりました。残念ながら会場へおいで頂いた方が例年より少なく、広い素晴らしい会場にしては物足りない感も否めませんでした。ただ、おいで頂いた方々から戴いたアンケートにより、大変よい評価を頂いており、出演者にとりましては何よりも嬉しい事でした。反省する点とし

よる支援も行いました。

また、映画出演者によるトークショー、最後にお楽しみ抽選会も行いました。大型台風接近で風雨の強まる中、200人を超す来場者をお迎えできたことはひとえに県民総合文化祭事業として広報を県の協力のもと一貫して行っていた賜物とおもいます。今後も、高齢者や障がい者等すべての人が美術や映画などの文化的活動に参加できるよう、当法人として取り組んでいく所存ですのでご支援をよろしくお願い致します。

この文章はすべてダミーです。県民総合文化祭は、愛媛の秋を彩る文化行事として県民の皆さんに広く親しまれてまいりました。今年度は、総合フェスティバル、子ども伝統文化フェスタ、30周年プレイベントのほか、各分野の舞台公演や大会・展示など、県下各地で盛大に開催され、多くの皆様にご来場いただきました。運営に携った文化団体の皆様のご御尽力はもとより、開催地の市町や文化協会、その他大勢の皆様のご理解・ご協力をいただきましたことを、改めて感謝申し上げます。

就職

この文章はダミーです。文化の素晴らしさを県民の皆様にお届けし、「愛顔(えがお)あふれる愛媛県」づくりに貢献するため、協会一丸となって取り組んで参りますので、引き続き、皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。

モダンダンス公演「愛媛ダンスコンテンポラリー」は、県民総合文化祭とともに第1回目より30年間の歴史を刻んで参りました。

移動公演として県内各地をまわり、開催地の文化団体とのコラボレーションを積極的に行い、個性あふれる各会員の作品とともに、昨年も幼児から大人まで出演者が集いました。

今回は、今治市で8年ぶりの開催。8年前の合同作品「鼓動くしまなみ海道10周年によせて」では今治寿太鼓保存会の皆さんと共演しました。

合同作品では、東・中・南予の県内全域から参加して作品に取り組み共に研鑽し、普段は各地で個々に活動する会員が、心一つに本番の舞台

にのぞむ、協会活動ならではの醍醐味です。

合同作品「クロスポイントそれぞれの未来へ」は、公演当日の場が、観客を含めた舞台にかかわる全ての人との時間・空間の接点(クロスポイント)となり、それぞれの次に繋がるという意味をこめて踊りました。

ピアノと津軽三味線の生演奏で、舞台上には「叶」の墨の文字を吊り、音楽と書の色も加わったエネルギーシユな舞台となりました。

県民総合文化祭30周年、文化協会25周年という大きな節目を迎え、愛媛の文化の益々の発展を祈念し、当



社会人1年目の社内旅行(京都にて)

協会もその一助を担えるよう努力したいと思います。

過去には、平成七年と同十八年の二回この会場で開催させて頂いております。公演内容は例年通り、民謡(四国の唄と踊り全国の唄と踊り)と民舞、三味線合奏、尺八合奏などバラエティーに富んだ賑やかな内容となりました。残念ながら会場へおいで頂いた方が例年より少なく、広い素晴らしい会場にしては物足りない感も否めませんでした。ただ、おいで頂いた方々から戴いたアンケートによりますと、大変よい評価を頂いており、出演者にとりましては何よりも嬉しい事でした。反省する点として「町内のPRが足りないのではないか」が一番多く主催する者、考えさせられました。

平成七年の時は座席が足りず困った事を覚えております。近年は地方でも文化祭、祭り、コンサートなども盛んになり、会場へ出かける機会が多くなったのも、「毎週々々行けない」理由なのかも知れません。「すばらしかった、このような公演を毎年開いてほしい」の声がいつも聞こえます。

この文章はダミーです。県民総合文化祭は、愛媛の秋を彩る文化行事として県民の皆さんに広く親しまれてまいりました。

子どもの誕生

今年度は、総合フェスティバル、子ども伝統文化フェスタ、30周年プレイベントのほか、各分野の舞台公演や大会・展示など、県下各地で盛大に開催され、多くの皆様にご来場いただきました。運営に携った文化団体の皆様の御尽力はもとより、開催地の市町や文化協会、その他大勢の皆様のご理解・ご協力をいただきましたことを、改めて感謝申し上げます。

来年度、県民総合文化祭は30周年を迎えるということで、これまでの県文祭にはなかった新たな催しを予定しております。文化の素晴らしさを県民の皆様にお届けし、「愛顔(えがお)あふれる愛媛県」づくりに貢献するため、協会一丸となって取り組んで参りますので、引き続き、皆様方のお力添えをよろしく願いたします。

妻との出会い

この文章はダミーです。平成29年度の愛媛県での最大のビッグイベントといえば9月から10月にかけて行われた愛媛国体と障がい者の愛媛大会だったと言っても過言では無かったと思います。

常日頃より県民の皆様には、障がいをお持ちの方々をより身近に感じていただきたいと思っておりましたので10月末の障がい者の愛媛大会の直前に「視覚障がい者と共にする美術鑑賞とバリアフリー上映会」を企画しました。

今回、「県民総合文化祭企画公募事業」に選出していただき、多くの県民の皆様にご報告する機会をいただいたことがとても大きな成果に繋がっていったと思っております。

まず、10月14日(土)に愛媛県美術館を会場として「視覚障がい者と共にする美術鑑賞会」を行いました。

目標としては、これまで視覚障がい者にとって遠い存在であった美術鑑賞をより近づけていくことと、県民の皆様へ新しい美術鑑賞の提案を



生まれて間もない夕子を抱いて

モダンダンス公演「愛媛ダンスコンテンポラリー」は、県民総合文化祭とともに第1回目より30年間の歴史を刻んで参りました。

移動公演として県内各地をまわり、開催地の文化団体とのコラボレーションを積極的に行い、個性あふれる各会員の作品とともに、昨年も幼児から大人まで出演者が集いました。今回は、今治市での8年ぶりの開催。8年前の合同作品「鼓動くしまなみ海道10周年によせて」では今治寿太鼓保存会の皆さんと共演しました。

合同作品では、東・中・南予の県



婚礼写真(愛媛写真館にて撮影)

行くことでした。とにかく県内では初めての斬新な試みでもあり、当日の来場者が想定よりも多くいくつかの課題もありましたが、来場者に多くの「気づき」を感じていただいたと思います。続いての、10月22日(日)は松山市総合福祉センターを会場として「バリアフリー上映会【映画】光」監督：河瀬直美」を上映しました。目標としては、これまで見ていただくことが少なかつた障がい者や高齢者に映画の楽しさを享受していただくことでした。当日は、視覚障がい者にはUDキャストや音声モニターの貸し

出しにより解説音声の聴取や聴覚障がい者には字幕や手話や要約筆記などによる支援も行いました。また、映画出演者によるトークショー、最後にお楽しみ抽選会も行い、盛会の中、終わることが出来ました。大型台風接近で風雨の強まる中、2000人を超す来場者をお迎えできたことはひとえに県民総合文化祭事業として広報を県の協力のもと一貫して行っていた賜物とおもいます。当法人として取り組んでいく所存ですのでご支援をよろしく願いたします。

内全域から参加して作品に取り組み共に研鑽し、普段は各地で個々に活動する会員が、心一つに本番の舞台にのぞむ、協会活動ならではの醍醐味です。合同作品「クロスポイント」それぞれの未来へ」は、公演当日の場が、観客を含めた舞台にかかわる全ての人の時間・空間の接点(クロスポイント)となり、それぞれの次に繋がるという意味をこめて踊りました。ピアノと津軽三味線の生演奏で、舞台上には「叶(かなう)」の墨の文字を吊り、音楽と書の方も加わったエネルギーな舞台となり



動物園にて。太一2歳の頃

県民総合文化祭30周年、文化協会25周年という大きな節目を迎え、愛媛の文化の益々の発展を祈念し、当協会もその一助を担えるよう努力したいと思えます。

家を新築

この文章はダミーです。平成二十九年年度県民総合文化祭民謡民舞の部を愛南町御荘文化センターで公演させて頂きました。過去には、平成七年と同十八年の二回この会場で開催させて頂いております。公演内容は例年通り、民謡(四国の唄と踊り全国の唄と踊り)と民舞、三味線合奏、尺八合奏などバラエティーに富んだ賑やかな内容となりました。残念ながら会場へおいで頂いた方が例年より少なく、広い素晴らしい会場にしては物足りない感も否めませんでした。ただ、おいで頂いた方々から戴いたアンケートにより、まずと、大変よい評価を頂いており、出演者にとりましては何よりも嬉しい事でした。反省する点として「町内



新築のわが家の前で家族と記念撮影

のPRが足りないのではないかと一番多く主催する者、考えさせられました。平成七年の時は座席が足りず困った事を覚えております。近年は地方でも文化祭、祭り、コンサートなども盛んになり、会場へ出かける機会が多くなったのも、「毎週々々行けない」理由なのかも知れません。「すばらしかった、このような公演を毎年開いてほしい」がいつも聞こえます。

平成29年度の愛媛県での最大のビッグイベントといえは9月から10月にかけて行われた愛媛国体と障がい者の愛媛大会だったと言っても過言をよろしくお願いいたします。これまでの県文祭にはなかった新たな催しを予定しております。

昇進そして定年

この文章はダミーです。モダンダンス公演「愛媛ダンスコンテンポラリー」は、県民総合文化祭とともに第1回目より30年間の歴史を刻んで参りました。

移動公演として県内各地をまわり、開催地の文化団体とのコラボレーションを積極的に行い、個性あふれる各会員の作品とともに、昨年も幼児から大人まで出演者が集いました。今回は、今治市での8年ぶりの開催。8年前の合同作品「鼓動」しまなみ海道10周年によせて」では今治寿太鼓保存会の皆さんと共演しました。

合同作品では、東・中・南予の県内全域から参加して作品に取り組み共に研鑽し、普段は各地で個々に活動する会員が、心一つに本番の舞台にのぞむ、協会活動ならではの醍醐

だくことが少なかつた障がい者や高齢者に映画の楽しさを享受していただくことでした。

当日は、視覚障がい者にはUDキャストや音声モニターの貸し出しにより解説音声の聴取や聴覚障がい者には字幕や手話や要約筆記などによる支援も行いました。

また、映画出演者によるトークショー、最後にお楽しみ抽選会も行い、盛会の中、終わることが出来ました。大型台風接近で風雨の強まる中、200人を超す来場者をお迎えできたことはひとえに県民総合文化祭事業として広報を県の協力のもと一貫して行っていた賜物とおもいます。今後も、高齢者や障がい者等すべての人が美術や映画などの文化的活動に参加できるように、当法人として取り組んでいく所存ですのでご支援をよろしく願います。

県民総合文化祭は、愛媛の秋を彩る文化行事として県民の皆さんに広く親しまれてまいりました。



アメリカ単身赴任時代、職場の仲間と

単身赴任

言では無かつたと思えます。常日頃より県民の皆様には、障がいをお持ちの方々をより身近に感じていただきたいと思っておりましたので10月末の障がい者の愛媛大会の直前に「視覚障がい者と共にする美術鑑賞とバリアフリー上映会」を企画しました。

この文章はダミーです。目標としては、これまで視覚障がい者にとつて遠い存在であった美術鑑賞をより近づけていくことと、県民の皆様により新しい美術鑑賞の提案を行うことでした。とにかく県内では初めての斬新な試みでもあり、当日の来場者が想定よりも多くいくつかの課題もありましたが、来場者に多くの「気づき」を感じていただいたと思えます。続いての、10月22日(日)は松山市総合福祉センターを会場として「バリアフリー上映会」映画【光】 監督：河瀬直美」を上映しました。目標としては、これまで見ていた



部長時代は全国の営業所回りで出張が続いた

味です。合同作品「クロスポイント」それぞれの未来へ」は、公演当日の場が、観客を含めた舞台にかかわる全ての人の時間・空間の接点(クロスポイント)となり、それぞれの次に繋がるという意味をこめて踊りました。

ピアノと津軽三味線の生演奏で、舞台上には「叶(かなう)」の墨の文字を吊り、音楽と書の方も加わったエネルギーな舞台となりました。県民総合文化祭30周年という大きな節目を迎え、愛媛の文化の益々の発展を祈念し、その一助を担えるよう努力したいと思えます。

巣立ちと孫の誕生

この文章はダミーです。平成二十九年年度県民総合文化祭民謡民舞の部を愛南町御荘文化センターで公演させて頂きました。過去には、平成七年と同十八年の二回この会場で開催させて頂いております。公演内容は例年通り、民謡(四国の唄と踊り)全国の唄と踊り)と民舞、三味線合奏、尺八合奏などバラエティーに富んだ賑やかな内容となりました。残念ながら会場へおいで頂いた方が例年より少なく、広い素晴らしい会場にしては物足りない感もありませんでした。ただ、おいで頂いた方々から戴いたアンケートにより、まず、大変よい評価を頂いており、出演者にとりましては何よりも嬉しい事でした。反省する点として「町内のPRが足りないのではないか」が一番多く主催する者、考えさせられました。平成七年の時は座席が足りず困った事を覚えております。

近年は地方でも文化祭、祭り、コンサートなども盛んになり、会場へ出かける機会が多くなったのも、「毎

週々々行けない」理由なのかも知れません。「すばらしかった、このような公演を毎年開いてほしい」がいつも聞こえます。

平成29年度の愛媛県での最大のビッグイベントといえは9月から10月にかけて行われた愛媛国体と障がい者の愛媛大会だったと言っても過言では無かったと思います。

常日頃より県民の皆様に、障がいをお持ちの方々をより身近に感じていただきたいと思っておりましたので10月末の大会の直前に「視覚障がい者と共にする美術鑑賞とバリアフリー上映会」を企画しました。



2010年正月。孫たちに囲まれて

両親との別れ

この文章はダミーです。今回、「県民総合文化祭企画公募事業」に選出していたとき、多くの県民の皆様に広報する機会をいただいたことがとても大きな成果に繋がっていったと思っております。

まず、10月14日(土)に愛媛県美術館を会場として「視覚障がい者と共にする美術鑑賞会」を行いました。目標としては、これまで視覚障がい者にとって遠い存在であった美術鑑賞をより近づけていくことと、県民の皆様に新しい美術鑑賞の提案を行うことでした。とにかく県内では初めての斬新な試みでもあり、当日の来場者が想定よりも多くいくつかの課題もありましたが、来場者に多くの「気づき」を感じていただいたと思います。

続いての、10月22日(日)は松山市総合福祉センターを会場として「バリアフリー上映会【映画】光」監督：河瀬直美」を上映しました。

目標としては、これまで見ていた



旅好きだった母。この1年後に天国へと旅立った

年齢に映画の楽しさを享受していただくことでした。

当日は、視覚障がい者にはUDキャストや音声モニターの貸し出しにより解説音声の聴取や聴覚障がい者には字幕や手話や要約筆記などによる支援も行いました。また、映画出演者によるトークショー、最後にお楽しみ抽選会も行い、盛会の中、終わることが出来ました。大型台風接近で風雨の強まる中、200人を超す来場者をお迎えできたことはひとえに県民総合文化祭事業として広報を県の協力のもと一貫して行っていた賜物とおもいます。

入院

この文章はダミーです。今年度は、総合フェスティバル、子ども伝統文化フェスタ、30周年プレイベントのほか、各分野の舞台公演や大会・展示など、県下各地で盛大に開催され、多くの皆様にご来場いただきました。運営に携った文化団体の皆様の御尽力はもとより、開催地の市町や文化協会、その他大勢の皆様のご理解・ご協力をいただきましたことを、改めて感謝申し上げます。

来年度、県民総合文化祭は30周年を迎えるということで、これまでの県文祭にはなかった新たな催しを予定しております。文化の素晴らしさを県民の皆様にお届けし、「愛顔(えがお)あふれる愛媛県」づくりに貢献するため、協会一丸となつて取り組んでまいりますので、引き続き、皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。

モダンダンス公演「愛媛ダンスコンテンポラリー」は、県民総合文化祭とともに第1回目より30年間の歴史を刻んで参りました。移動公演と

金婚式を迎えて

して県内各地をまわり、開催地の文化団体とのコラボレーションを積極的に行い、個性あふれる各会員の作品とともに、昨年も幼児から大人まで出演者が集いました。

この文章はダミーです。今回は、今治市での8年ぶりの開催。8年前の合同作品「鼓動くしまなみ海道10周年によせて」では今治寿太鼓保存会の皆さんと共演しました。合同作品では、東・中・南予の県内全域から参加して作品に取り組み共に研鑽し、普段は各地で個々に活動する会員が、心一つに本番の舞台にのぞむ、協会活動ならではの醍醐味です。

合同作品「クロスポイント」それぞれ未来へ」は、公演当日の場が、観客を含めた舞台にかかわる全ての人の時間・空間の接点(クロスポイント)となり、それぞれの次に繋がるという意味をこめて踊りました。ピアノと津軽三味線の生演奏で、舞台上には「叶(かなう)」の



家族一同が集まったの金婚式(東京第一ホテル松山)

墨の文字を吊り、音楽と書力も加わったエネルギーな舞台となりました。

県民総合文化祭30周年、文化協会25周年という大きな節目を迎え、愛媛の文化の益々の発展を祈念し、当協会もその一助を担えるよう努力したいと思っております。公演内容は例年通り、民謡(四国の唄と踊り)全国の唄と踊り)と民舞、三味線合奏、尺八合奏などバラエティーに富んだ賑やかな内容となりました。平成七年の時は座席が足りず困った事を覚えております。平成七年の時は座席が足りず困った事を覚えております。

今、伝えたいこと

この文章はダミーです。近年は地方でも文化祭、祭り、コンサートなども盛んになり、会場へ出かける機会が多くなったのも、「毎週々々行けない」理由なのかも知れません。「このような公演を毎年開いてほしい」との声がいつも聞こえます。

平成29年度の愛媛県での最大のビッグイベントといえは9月から10月にかけて行われた愛媛国体と障がい者の愛媛大会だったと言っても過言では無かったと思っております。

常日頃より県民の皆様に、障がいをお持ちの方々をより身近に感じていただきたいと思っておりましたので10月末の障がい者の愛媛大会の直前に「視覚障がい者と共にする美術鑑賞とバリアフリー上映会」を企画しました。今回、「県民総合文化祭企画公募事業」に選出していただき、多くの県民の皆様にご覧する機会をいただいたことがとても大きな成果に繋がっていったと思っております。来場者に多くの「気づき」を感じていただいたと思っております。

アジが豊漁!

この文章はすべてダミーです。県民総合文化祭は、愛媛の秋を彩る文化行事として県民の皆さんに広く親しまれてまいりました。

今年度は総合フェスティバル、子ども伝統文化フェスタ、30周年プレイベントのほか、各分野の舞台公演や大会・展示など、県下各地で盛大に開催され、多くの皆様にご来場いただきました。運営に携った文化団体の皆様の御尽力はもとより、開催地の市町や文化協会、その他大勢の皆様のご理解ご協力をいただきましたことを改めて感謝申し上げます。

来年度、県民総合文化祭は30周年を迎えるということで、これまでの県文祭にはなかった新たな催しを予定しております。



母の十七回忌法要

この文章はダミーです。合同作品「クロスポイントそれぞれの未来へ」は、公演当日の場が、観客を含めた舞台にかかわる全ての人との時間・空間の接点(クロスポイント)となり、それぞれの次に繋がるという意味をこめて踊りました。ピアノと津軽三味線の生演奏で舞台上には「叶」の墨の文字を吊り、音楽と書力も加わったエネルギッシュな舞台となりました。



県民総合文化祭30周年、文化協会25周年という大きな節目を迎え、愛媛の文化の益々の発展を祈念し、当協会もその一助を担えるよう努力したいと思います。

平成二十九年度県民総合文化祭民謡民舞の部を愛南町御荘文化センターで公演させて頂きました。過去には、平成七年と同十八年の二回この会場で開催させて頂いております。公演内容は例年通り、民謡(四国の唄と踊り全国の唄と踊り)と民舞、三味線合奏、尺八合奏などバラエティーに富んだ賑やかな内容となりました。

残念ながら会場へおいで頂いた方が例年より少なく、広い素晴らしい会場にしては物足りない感も否めませんでした。

夕子一家と東京見物

この文章はダミーです。ただ、おいで頂いた方々から戴いたアンケートによりますと、大変よい評価を頂いており、出演者にとりましては何よりも嬉しい事でした。反省する点として「町内のPRが足りないのではないか」が一番多く主催する

者、考えさせられました。

平成七年の時は座席が足りず困った事を覚えております。近年は地方でも文化祭、祭り、コンサートなども盛んになり、会場へ出かける機会が多くなったのも、「毎週々々行けない」理由なのかも知れません。「すばらしかった、このような公演を毎年開いてほしい」がいつも聞こえます。

平成29年度の愛媛県での最大のビッグイベントといえ9月から10月にかけて行われた愛媛国体と障がい者の愛媛大会だったと言っても過言では無かったと思います。常日頃より県民の皆様、障がいをお持ちの方々をより身近に感じていただきたいと思っておりましたので10月末の大会の直前に「視覚障がい者と共にする美術鑑賞」を企画しました。



あれ?庭の梅が...

この文章はダミーです。今回、「県民総合文化祭企画公募事業」に選出させていただき、多くの県民の皆様にご来場する機会をいただいたことがとても大きな成果に繋がっていったと思っています。

まず、10月14日(土)に愛媛県美術館を会場として「視覚障がい者と共にする美術鑑賞会」を行いました。目標としては、これまで視覚障がい者にとって遠い存在であった美術鑑賞をより近づけていくことと、県民の皆様へ新しい美術鑑賞の提案を行うことでした。



孝志の就職祝い

この文章はダミーです。とにかく県内では初めての斬新な試みでもあり、当日の来場者が想定よりも多くいくつかの課題もありましたが、来場者に多くの「気づき」を感じていただいたと思います。続いて、10月22日(日)は松山市総合福祉センターを会場として「バリアフリー上映会【映画【光】 監督:河瀬直美】」を上映しました。

目標としては、これまで見ていただくことが少なかった障がい者や高齢者に映画の楽しさを享受していただくことでした。

当日は、視覚障がい者にはUDキャストや音声モニターの貸し出



しにより解説音声の聴取や聴覚障がい者には字幕や手話や要約筆記などによる支援も行いました。

また、映画出演者によるトークショー、最後にお楽しみ抽選会も行い、盛会の中、終わることが出来ました。

懐かしい友と再会

この文章はダミーです。台風接近で風雨の強まる中、200人を超す来場者をお迎えできたことはひとえに県民総合文化祭事業として広報を県の協力のもと一貫して行っていた賜物とおもいます。今後も、高齢者や障がい者等すべての人が美術や映画などの文化的活動に参加できるよう、当法人として取り組んでいく所存ですのでご支援をよろしくお願いいたします。

県民総合文化祭は、愛媛の秋を彩る文化行事として県民の皆さんに広く親しまれてまいりました。

今年度は、総合フェスティバル、子ども伝統文化フェスタ、30周年プレイベントのほか、各分野の舞台公演や大会・展示など、県下各地で盛大に開催され、多くの皆様にご来場いただきました。

合同作品では、東・中・南予の県内全域から参加して作品に取り組み共に研鑽し、運営に携った文化団体の皆様の御尽力はもとより、開催地の市町やその他大勢の皆様のご理解・ご協力をいただきましたことを、改めて感謝申し上げます。

散歩で匂を体感

この文章はダミーです。文化の素晴らしさを県民の皆様にお届けし、「愛顔(えがお)あふれる愛媛県」づくりに貢献するため、協会一丸となって取り組んで参りますので、引き続き、皆様方のお力添えをよろしくお願いいたします。

県民総合文化祭とともに第1回目より30年間の歴史を刻んで参りました。移動公演として県内各地をまわり、開催地の文化団体とのコラボレーションを積極的に行い、個性あふれる各会員の作品とともに、昨年も幼児から大人まで出演者が集いました。今回は、今治市で8年ぶりの開催。8年前の合同作品「鼓動～しまなみ海道10周年によせて」では今治寿太鼓保存会の皆さんと共演しました。

合同作品では、東・中・南予の県内全域から参加して作品に取り組み共に研鑽し、普段は各地で個々に活動する会員が、心一つに本番の舞台にのぞむ、協会活動ならではの醍醐味です。



私の宝物



この文章はダミーです。
写真の説明文が入ります。



この文章はダミーです。
写真の説明文が入ります。



この文章はダミーです。
写真の説明文が入ります。



この文章はダミーです。
写真の説明文が入ります。



この文章はダミーです。
写真の説明文が入ります。

思い出のアルバム



この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。愛犬ジローは11歳。以前ほどの元気はなくなったが、私と歩調を合わせるように散歩につきあってくれる。



この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。



この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。



この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。愛犬ジローは11歳。以前ほどの元気はなくなったが、私と歩調を合わせるように散歩につきあってくれる。



この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。



この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。この文章はダミーです。写真の説明文が入ります。



父・鈴木太郎へ

この文章はダミーです。この雑誌制作をプレゼントした方の寄稿文が入ります。普段からあまり多くを語ることのなかったあなたは、私たち子どもにとって「いつも忙しい人」という印象でした。腹を割った話をする事なく実家を離れ、人の親となった私たちは、あらためてあなたの生き方や考え方を知りたいと思うようになりました。今回の本制作は、あなただけでなく我々子ども、そして孫たちにとっても本当に貴重な贈り物になったと確信しています。

人生はまだまだ続きます。この先も心配ばかりかけるかもしれませんが、どうか温かく見守って。そして何より、体を大切にしてください。

夕子・太一より

鈴木太郎 人生の足跡を辿る

平成30年10月10日 発行
発行／佐藤夕子・鈴木太一
印刷／岡田印刷株式会社